

第15回 研修見学会報告

宇宙からエコを考える！

2008年8月22日(金)第15回の研修見学会が行われ一般県民および会員22名が参加し(株)水海道産業 石下工場と宇宙航空研究開発機構 筑波宇宙センターを見学しました。

水海道産業では「自然にやさしいリサイクル」として工場や建設現場などから排出される様々な産業廃棄物をリサイクルしています。環境に負担を与えない環境にやさしい企業として、廃ガラスから「クリスタルストーン」になる工程を見学。地球温暖化防止のために、最少エネルギーで製造していました。

筑波宇宙センターではN-1からH-Bロケットの模型と実物のエンジンに触れる事が出来る「展示フロア」、大型プール内で無重力の訓練を行う「無重量環境試験棟」、「宇宙ステーション試験棟」では船内実験室とロボットアームが作られているところを見学しました。



『宇宙からエコを考える』に参加して

緑の地球(小5女子) by ママ

私は、ゴミ拾いが大好きです。ゴミを拾っていると、いろいろな疑問がわいてきます。ペットボトルのゴミ。こんなに、ペットボトルがなぜ、作られるのか？作った人は、なぜ、集めないのか？これだけ捨てられているのに、作っている人は、どうにかしようと思わないのか？私は、自分が作った物が、捨てられていたら悲しいです。それも、作った人の名前が、はっきり書いてあるのに。自分が作った物が、捨てられ、自分達が住んでいる町や川を汚しているんですよ。私だったら、恥ずかしいです。それから、ビニール袋。とっても、便利です。植物採取が好きな私は、小さなビニール袋をリュックに入れて、珍しい植物を採取します。とても便利なビニール袋が、動物達の命を脅かすものである事を知ってからビニール袋のゴミを見ると、拾わずにはいられません。葛西臨海公園のそばのゴミ拾いに参加した時、海亀がビニール袋を、くらげと見間違えて、食べて死んでしまった写真を見ました。海亀のお腹の中には沢山のビニール袋が入っていました。お腹がすいて、お腹がすいて、食べ物だと思って、むしゃむしゃ食べただけなのに、死んでしまうなんて。涙が止まりませんでした。人間にとって便利な物も管理を間違えると、取り返しのつかない事になる

事を知りました。小学校1年の先生が教えてくださった『命はひとつ！どこにも、売っていない！』ということばを、思い出しました。学年が上がるごとに、いろいろな事を学ぶと、『命はひとつ！どこにも、売っていない！』という言葉の重さをいっそう感じます。私達人間と一緒に、地球に暮らす動物達と、共に生きていくには、どうしたらよいのかと考えていました。

今日、水海道産業さんの工場を見学させてもらい、とっても勉強になりました。私達の使っている不要になったびんが、今まで知っていた再利用と違う使い方をされていました。私は、中身が無くなったびんは、回収されて、また、利用されていると思っていました。でも、再利用されていないびんがある事を知りました。

そのピンを細かく砕き、カドを取ると、水槽に入れる砂の代わりになるそうです。砂よりも水槽に入れておくと、水が濁りにくいそうです。私は、父と一緒に、金魚とめだかとカブト虫を育てています。社長さんが、お土産に、細かく砕いたカドの



ないガラスを分けてくださいました。家の金魚達のお土産にもらって帰りました。今度、父と一緒に水槽の掃除をする時に利用したいと思います。楽しみです。



また、加工されたガラスは、植物を育てる時の砂としても使うことが出来るそうです。透明のコップに、加工した色とりどりの加工ガラスを入れると、とっても、きれいです。

加工ガラスを、道路に使うことも出来るそうです。アスファルトより、水はけが良く、土と同じ効果があるそうです。温暖化を防ぐ、ひとつの方法に

なりそうで、とっても希望がもてました。また、カラフルなガラスなので、道路に利用する際に、花の絵とか優しい気持ちになれる絵柄の道路が出来たら、学校のそばの道も、スピードを出し過ぎる車もなくなるんじゃないかと思ったら嬉しくなってきました。毎朝、



登校する時に通る道は、信号の無い道なので、通勤の為に使う人が多いです。細い道なのに、すごいスピードで走り過ぎて行き、怖いです。朝、忙しいと思うから仕方ないけど、優しい絵柄の入った道路に変わったら、運転手さんの気持ちも優しくなるかな？

もう一つ見学した、宇宙センターでは、いろいろな宇宙開発のお話を聞きました。不思議に思ったのが、宇宙空間で、切り離された燃料タンクは、どうなるのかしら？宇宙のごみになったりしないのかしら？

私が、母に「元荒川で、昔の人が泳いだみたい、川で、泳ぎたい。川で、魚取りをしたい！」と言うのと同じように、いつか『2000年ごろの宇宙特集』なんて番組を見ながら、私も自分の子どもや孫に、「おばあちゃんが子どもの頃は、宇宙は、何もなくて、青い綺麗な地球が見えたよ。月の模様も良く見えたものだったわ。」と。すると、「僕も、おばあ



ちゃんが見た、こんなにもきれいな青い地球を、この目で見たいよ。どんなにきれいだったんだろう・・・。」と、孫が私に言うのかな？

今なら、まだ、間に合うかな？私の子どもが、孫が、寂しい言葉を言わないために、今、出来る事はなんだろう？土井宇宙士がビデオでおっしゃっていたように、宇宙開発が人の幸せのためでありますように。



* インタビュー *

今回参加した小学生の鳥家航一郎君は、切り離された燃料タンクなどがごみとなり落ちるのは、ブラックホールならいいけれど、砂漠にはラクダがいるし、海には魚がいる、簡単に捨てるのはいけない事だと真剣な眼差しでした。

日頃より環境活動に取り組んでいる参加者は、不要になったガラス瓶の再利用方法の過程を実際に見学し、砂や道路素材に生まれ変わることを知りました、今後の地区でのごみの分別などに活かせればと思います。

また、身近なごみと宇宙のごみを比較し、切り離された燃料タンクの行方や機材の軽量化、地球上で問題になっている燃料など、それぞれの立場から宇宙からエコを考えるきっかけになったと思います。

報告 宮田尚美